

伊藤青少年育成奨学会 20周年記念

可児市に武道場
「漱玉館」建設へ



武道場「漱玉館」の完成予想図

床下に「かめ」本格的剣道場

武道場の床下に埋め込む
かめ＝可児市大森奥洞、
パローホールディングス
敷地内



公益財団法人伊藤青少年育成奨学会（田代久美子理事長）は13日、創設20周年を記念し、可児市大森奥洞のパローホールディングス所有地に武道場「漱玉館」を建設する、と発表した。11月着工、来年6月完成の予定。剣道を中心になぎなたや居合道の団体、個人に貸し出し、日本武道の振興を図る。

建設場所は人材開発センター嫩葉舎の隣接地で、木造鉄骨平屋、床面積約630平方メートル。床材に厚さ4・5センチの秋田杉を使った本格的な剣道競技場2面を備える。床下には打ち込みで踏み込んだ足の音に共鳴するよう、高さ約90センチのかめ10個を埋め込む。床材は柔軟性があり、競技者の足を痛めにくい効果が期待できるという。更衣室やシャワー室も備える。

総工費は約2億5千万円。建設費用は同財団が持つパロー株式の配当金などを充てる。多治見市の剣道団体高石グループが運営に協力する。主催大会の開催も検討する。

同会によると、県内の剣道競技人口は約4300人いるが、十分に稽古場が確保できていない。田代理事長は「近年日本文化の継承に目が向くようになった。若者たちが武士道を学ぶ一助になれば」と願いを話している。

同会はパロー創業者の故伊藤喜美氏が創設し、奨学金給付やスポーツ・地域振興助成などを行ってきたが、施設運営を手掛けるのは初めて。（箕浦田美子）